定家八代抄

巻第十二

題不知　とものり

夕されば ほたるよりけにもゆれども
ひかり見ねばや人のつれなき

巻第十八

業平朝臣

はるる夜のほしか川べの蛍かも
我が住むかたのあまの焼く火か

巻第二十

法文百首よみ侍りけるに、二乗但空知如蛍火

道のべのほたるばかりをしるべにて
独ぞいづる夕やみの空

「国歌大観」より